

# 第467回鉄鋼流通問題懇談会

2024年10月30日（水）14：30

茅場町「鉄鋼会館706号室」

## 議 題

1. 配布資料説明（全鉄連）
2. 全鉄連情勢報告
  - (1) 地区の状況
    - 東京（鉄流懇・提出資料参照）
    - 東京、大阪、東北、静岡地区概況報告
  - (2) 総括：井上全鉄連会長
3. 意見交換
4. テーマ「現場作業のDX化」について  
メーカー、商社、全鉄連（宮脇常任理事）、発言ごとに質疑応答  
○発表時間は3～4分程度、主なご発言内容は下記のとおり
  - ・スマホやタブレットを導入／活用方法 ・マニュアルを映像化した
  - ・アシストスーツを試してみた ・切断等の自動操業（例：シヤのレーザー切断機夜間自動運転）
  - ・最新設備の導入（による省力化・操業/品質改善等）DX化 など
5. 総括：赤木鉄流懇会長
6. 次回会議予定  
2025年1月21日（火）14：30～ 於：茅場町「鉄鋼会館4階」日本鉄鋼連盟・第一会議室  
次回テーマ：「職場環境の改善への取り組み」について  
○オフィス・現場、どちらでも・両方でもよい

発表項目	鋼管	薄板	厚板	棒鋼・形鋼
	伊藤忠丸紅鉄鋼	岡谷鋼機	JFE商事	エムエム建材
1. 需況動向	<p>(店売り分野) 一般店売り分野は依然として荷動き低調、足元では対前年割れの状況が続いている。建築向けは人手不足による慢性的な工期遅延、案件見直しもあり、秋需も期待できない状況。需要回復は25年度からという声があるものの、不透明。上期値上げに関しては、高炉品種については、市場に転嫁できたものの、溶協品種については一部浸透しておらず厳しい状況。</p>	<p>2024年8月末の薄板三品在庫は、409.5万トンド前月比14.6万トンド増加した。在庫内訳は、メーカー在庫が169.7万トンド前月比15.8万トンド増、問屋在庫85.7万トンドで1.7万トンド減、コイルセンター在庫は154.1万トンドで5千トンドの増加に留まった。流通在庫は極めて抑制されている。メーカー在庫は表面処理鋼板で著しく増加し、34万2千トンドで7万2千トンド増加した。熱延鋼板は102万2千トンドで6.5万トンド増加した。熱延に比べ表面処理鋼板の増加幅が大きい。自動車分野に対する生産調整や需要家の稼働日数減による季節要因はあるものの、メーカー在庫の増加は突出して見える。輸入鋼材流入を受けて市場では在庫の重さが問題になっている。在庫水準が高い中、一部メーカーの値下げアナウンスがあり相場急落が懸念されるが、前社筋、特約店筋は、市場からの要求に対しては冷静な対応を心がけている状況である。9月末の薄板三品在庫については、稼働日数増分の減少が見込まれると思われる。</p>	<p>【鋼板流通概況】 ・24年8月鋼板流通在庫は38.4万トンド(在庫率:3.3ヵ月) 前年同月比+1.7%、前月比▲0.9% 3ヵ月ぶりに在庫量は減少も、出荷低調を背景に依然在庫高位が続いている。需要面では各分野とも好転の兆しは見られず、24年下期も厳しい状況が続く。 建機: 北米、欧州、アジア向けのレンタル需要低位 産機: 設備投資意欲減退により低位 建築: 人手不足による工事遅れ継続。小案件は低水準。 橋梁: 補修工事安定も一部人手不足で工事の遅れあり。新橋は不調。</p>	<p>【棒鋼】 全体的に物件が縮減傾向の中、セネコン各社は長引く資材高・労務費高騰による設計見直しを続けており、採算重視、現場職員・作業員の確保見合いの受注に徹しようとしているが、一部電炉メーカーの値下げ等も相俟って、需要家との交渉は難航している。又、棒鋼メーカーも価格維持を掲げ、需要見合いの生産と採算重視の姿勢を打ち出しているが、先安感の払拭が厳しい状況となっている。 【形鋼】 今まで大型案件に助けられ、一定の仕事量を確保していた需要家についても、月を追うごとに仕事量が減少しており、稼働率が7割以下まで落ち込む業者も増えてきた。一方で中小案件も依然として低迷が続いており、少なくとも年度末まで好材料は無い。大手電炉メーカーの値下げもあり、市況を維持する事自体が困難な状態にある。</p>
2. 需要産業動向	<p>(建築・土木) 8月の新設住宅着工戸数は、前年同月比5.1%減の6.7万戸で4か月連続の減少。一方民間非居住用建築物の着工延床面積は271万㎡と前年同月比17.3%減で、2か月連続の減少。前年同月比と比較すると、店舗、工場は増加したが、事務所、倉庫が減少したため、全体で減少となっている。 (自動車) 8月の国内生産台数は、前年同月比15.5%減の51万台だった。認証不正問題に伴う一部車種の生産停止に加え、台風10号で国内全工場の稼働を一時停止したことが影響した。 (建機) 8月の建設機械出荷金額は、内需758億円(前年同月比11.6%減)、外需1666億円(同23%減) 総合計でも19.7%の大幅減となった。 (造船) 8月の起工量は55万G/T(前年同月比+12%)。</p>	<p>2024年8月の自動車国内販売は、前年同月比3.5%減の32.8万台と7月は今年に入ってからの初の前年同月比プラスになったものの、再びマイナスに転じた。軽自動車が12.0万台で同5.3%減、それ以外が20.8万台で同2.4%減となった。 8月の民生用電気機器の国内出荷金額は、1,940億円(前年同月比98.4%)と2か月ぶりのマイナスとなった。ルームエアコン、電気冷蔵庫、電気洗濯機のいずれも前年同月比はマイナスであった。消費者マインドの改善が足踏み状態にあることもあり、大型製品を中心に出荷が低調で、民生用電気機器全体では前年同月を下回った。ただし、8月単月の10年平均出荷金額1,921億円は上回っている。国土交通省より発表された8月の新設住宅着工戸数は、6.7万戸(前年同月比5.1%減)で、4か月連続の減少となった。利用関係別で見ると持家は前年同月比6.6%減で33か月連続の減少。貸家は同1.4%減で前月の増加から再び減少となった。分譲住宅は同12%減で4か月連続の減少。マンションが減少し、一戸建住宅も減少した為分譲住宅全体で減少となった。</p>	<p>【造船: 手持ち工事量】 ・24年9月実績は33万総トン(前年同月比▲6%) ・24年1-9月実績累計: 932万総トン ・24年9月末手持ち工事量: 3,000万総トン 手持ち工事量は3,3年ほどを保持。世界情勢の混乱も相まってコンテナ船への需要は高まっており、日中韓の提示納期は28年以降と延伸化。当面は受注残の消化に注力。 【産機: 建設機械出荷金額(本体合計)】 ・24年8月実績: 2,082億円(前年同月比▲23.4%) 国内: 649億円(同▲12.8%)、輸出: 1,433億円(同▲27.5%) 米国金利の高止まり及び欧州経済の低迷により輸出金額が減少。国内も販売環境の悪化から買い控えが生じ減少。米国政策金利低下や中国経済政策の影響は要注視。 【建築: 鉄骨需要量】 ・24年8月実績: 28.4万トン(前年同月比▲5.0%) ・24年4-8月実績累計: 253.9万トン(前年同期比▲1.3%) 2ヵ月連続の減少。特に2,000㎡以下の小型案件が少なく、過去10年間で最低の水準。需要回復要素乏しく、今年度も厳しい状況が続く見通し。 【産機: 鉱産機械受注金額】 ・24年9月実績: 362.4億円(前年同月比▲18.4%) 国内、輸出ともに前年同月を下回り、2ヵ月ぶりの減少。経済環境に左右されやすい板金系をはじめ、中・大型プレスが減少。輸出は東南アジアやインド向けに増加も、北米、欧州、中国向けに減少。</p>	<p>【棒鋼】 国交省発表の8月住宅着工戸数は66,819戸で前年同月比5.1%減、そのうちマンションは7,501戸で同5.0%減、戸建て住宅は9,578戸と同17.4%減となった。足下、物流倉庫、オフィスビル建設はピーク時に比べると建設意欲に陰りが見えており、これに伴い大手デベロッパーは確実に採算の合う高級マンション建設にシフトをしているが、全体感からするとRC造の建設案件数は漸減傾向にある。 【形鋼】 国交省より発表された8月度着工統計からの全国の鉄骨推定需要量は28.4万トンとなり、前月の31.5万トンを大幅に下回る結果となった。これまで全体を牽引してきた大型案件の仕事量に陰りが見えており、足下、FABの山積みも年度内は低調な状況が続く模様。新年度以降に期待したいが、軽量骨材(メーサイト)不足の問題も勃発しており、特に高層ビル案件への影響が懸念されている。</p>
3. 輸出入動向	<p>2024年8月鋼管輸出量 継目無鋼管: 1万7,822トン(前月比▲9.1%) 溶銲接鋼管: 1万1,284トン(前月比▲57.1%) 2024年8月鋼管輸入量 継目無鋼管: 1,548トン(前月比+7.0%) 溶銲接鋼管: 11,520トン(前月比+8.9%)</p>	<p>2024年8月の普通鋼鋼材輸入量は33.6万トンド前年同月比で18.4%減と21ヵ月ぶりの減少となった。主要品種別では、熱延広幅帯鋼(9.0万トンド、同31.2%減)が8ヵ月ぶり、亜鉛めっき鋼板(8.8万トンド、同13.2%減)が5ヵ月ぶり、冷延広幅帯鋼(6.1万トンド、同21.1%減)が6ヵ月ぶりの減少となった。一方、厚板(3.7万トンド、同11.5%増)が7ヵ月連続の増加となった。仕入れ先別では、韓国(19.7万トンド、同24.9%減)が19ヵ月ぶり、台湾(6.9万トンド、同6.1%減)が3ヵ月ぶり、中国(5.1万トンド、同24.5%減)が3ヵ月ぶりの減少となった。</p>	<p>【厚板輸入実績】 ・24年8月実績 3.7万トン(前年同月比+11.5%) 韓国3.1万トン(同±0%)、中国4千トン(同50倍)、台湾1千トン 中国向けの輸入量が増加。足元国内材との差が広がっており、今後も輸入量が増加する懸念あり。 【厚板輸出実績】 ・24年8月実績 24.6万トン(前年同月比▲10.9%) 中国5.0万トンド(同+8.3%)、韓国3.8万トンド(同▲53.2%) 韓国は内需低迷および中国材流入増加により大幅減。</p>	<p>直近の実績(24年8月統計データ)にみる輸出入状況は以下の通り。 【輸出】 形鋼: 49千MT(前月比+9.8%、前年同月比▲3.2%) 棒鋼: 15千MT(前月比+160.9%、前年同月比▲51.5%) 【輸入】 形鋼: 3.4千MT(前月比▲73.1%、前年同月比▲71%) 棒鋼: 1.1千MT(前月比▲57.5%、前年同月比▲18.8%) 輸出の棒鋼は、大幅に落ち込んだ7月と比べると、韓国向け等が復調してきたものの、例年としては依然低いレベルで推移している。輸入の形鋼も2022年2Q以来の減少を記録。</p>
4. 海外市場動向	<p>原油価格9月平均WTIは69.55ドル/バレルと3ヵ月前に比べ、+12%下落、主要消費国で景気の先行きへの警戒感が高まっており、一つの目安とされる70ドルを割り込んで推移している。米国リグカウント数は586基と低位安定水準にある。</p>	<p>WSA(世界鉄鋼協会)加盟世界71か国合計の2024年8月の粗鋼生産量(速報)は、1億4,480万トンド前月実績(1億5,230万トンド)比4.9%減、前年同月(1億5,490万トンド)比では6.5%減。中国は、9ヵ月ぶりに、8,000万トンドを下回る見通しとなった。面の経済及び鉄鋼需要の下振れリスクとして、金融市場の変動、ロシアによるウクライナ鋼の長期化や中東地域をめぐる情勢、中国経済低迷の長期化とそれに伴う鉄鋼需要バランスの悪化、物価の高止まり、人手不足による生産活動への影響などが挙げられる。こうしたリスクを踏まえ、引き続き、内外経済及び鋼材需要の動向を注視する必要がある。</p>	<p>【韓国】 ・24年8月厚板生産量: 70.1万トン(前年同月比▲5.8%) ・24年8月厚板輸出量: 22.8万トン(同+11.2%) ・24年8月国内厚板見掛け消費量: 57.6万トン(同▲17.2%) 24年度内で国内厚板見掛け消費量が初めて60万トンドを下回る。 国内の需要低迷が続いているため、輸出比率は増加傾向。</p>	<p>海外動向のカギを握る中国については、同政府が9月24日以降、数々の景気刺激策を公表し、景気回復への期待感が高まる中、株価や鋼材市況は上昇に転じた。しかし、内需の低迷や雇用不安、長引く不動産不況による懸念を完全払拭するまでには至っておらず、しばらく価格動向を注視して行く必要がある。又、中国製品に対する関税引き上げについて、欧米以外の新興国でも模索する動きが出ており、中国包囲網とも呼べるこれらの動きも注目される。</p>

## 鉄鋼流通問題懇談会（2024年10月）

発表者 発表項目	メーカー JFEスチール
1. 需給動向（景況感）	<p>（国内）・9月の日銀短観では、企業の景況感を表す業況判断指数（DI）の大企業・製造業の指数が、前回（6月）調査比±0の+13と横ばい（前回先行き比では▲1の悪化）と示された。先行きは+14となり、足元比+1で良化方向と示された。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家計部門では、8月の小売業販売額が前年同月比+2.8%と30ヶ月連続の上昇。物価上昇などの影響により、上昇が継続。</li> <li>・製造部門では、8月四輪車生産が前年同月比▲15.4%と2ヵ月振りの減。8月の機械受注（民需）は前月比▲1.9%と2ヵ月連続の減。</li> <li>・建築部門では、8月の全建築物建築着工床面積が830万㎡（前年同月比▲10.9%）となり、減少傾向が継続。</li> </ul> <p>（海外） 米国：好調な個人消費や非住宅投資に支えられて底堅い経済成長を維持するも、住宅投資は低調。大統領選前の様子見感も継続。          欧州：金融緩和に伴う投資下支え、実質賃金上昇による個人消費回復などにより、内需主導での緩やかな経済成長が見込まれる。          中国：好調な輸出が経済成長を支える一方、不動産部門の低迷長期化、不透明感の残る政府施策が成長押下げ要因となっている。          各国の対中通商施策の動向・影響は引き続き要注視。</p> <p>&lt;国内鉄鋼需給&gt;</p> <p>（生産）・9月の粗鋼生産（速報）は662万tと前年同月比で7ヶ月連続の減少。          （出荷）・8月の普通鋼国内向け出荷は236万トンと前年同月比で4ヶ月連続の減。輸出向け出荷は180万トンと2ヵ月振りの減。          （在庫）・8月末の普通鋼鋼材国内向け在庫（速報）は528万トンと前月末比で3ヶ月ぶりの増。          ・8月末の薄板3品在庫は409万トン（前年同月比+9万トン）で1ヵ月振りの増。          ・8月末の厚板シャー在庫は39万トン（前年同月比+7万トン）で1ヵ月振りの減。</p>
2. 需要産業動向	<p>〔建 築〕・8月の新設住宅着工戸数は6.7万戸（前年同月比▲5.1%）で4ヶ月ぶりの減。貸家・持家・分譲、いずれも減。          ・8月の非住宅着工床面積は305万㎡（前年同月比▲13.4%）で2ヵ月連続の減。用途別では、工場・店舗が増、倉庫・事務所は減。</p> <p>〔自動車〕・9月の国内販売（輸入車除く）は40.6万台（前年同月比+0.3%）で2ヵ月振りの増。          ・8月の完成車輸出は29.4万台（前年同月比▲17.1%）で4ヵ月連続の減。          ・8月の四輪車生産は53.4万台（前年同月比▲15.4%）で2ヶ月振りの減。</p> <p>〔造 船〕・9月の新造船受注量は33.8万GT（前年同月比▲61.3%）。手持工事量は3,000万GT（前月末比▲1.5%）で2ヵ月連続の減。</p>
3. 輸出入動向	<p>〔輸 出〕・8月の全鉄鋼輸出は266万トン（前年同月比▲5.1%）で2ヶ月振りの減。向先別では、印向け増、米・韓・中向け減。          〔輸 入〕・8月の鋼材輸入（普通鋼・ステン鋼・その他合金鋼計）は38万トン（前年同月比▲16.6%）で19ヶ月振りの減。天候影響等による一過性のものと推定。</p>
4. 海外市場動向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・9月の世界粗鋼生産（推計含む）は1億4,360万トン（前年同月比▲4.7%）で3ヵ月連続の減。</li> <li>・9月の中国粗鋼生産（速報）は7,707万トン（前年同月比▲6.1%）。</li> <li>・9月の中国鋼材輸出（速報）は1,015万トン（前年同月比+25.9%）。</li> <li>・中国市中在庫は、10月18日時点で875万トン（前年同期比▲18.5%）。条鋼類で大幅減も、鋼板類は高止まり。</li> </ul>